

並木幼稚園だより

[建学の精神]
感性の豊かな「日本の心」を
持った眞の国際人の育成

令和2年 5月号
学校法人志賀学園並木幼稚園
発行者:園長 渡部栄城

何と言つていいのか？ 何を書いたらいいのか？ まさかのまさかで、先が全く見えません。読めません。困ったものです。

大変な時代である。想定外の想定外である。世界中で起こっているのである。信じられないことが何日も続いているのである。

今現在は、臨時休園2日目の午前9時です。上の文は、昨日の午後に書いたものです。続きませんでした。後が。次の文が。言葉が。



今朝、思わず出た言葉は

つい ぐちが 出そうになる
つい 世の中を
うらみたくなる
しかし 当然のことながら
ぐちを言っても始まらない
世の中を恨んでも
始まらないのが 今

気を取り直して 書きます。 (パソコンのキーを)打ちます。



<ホームページのお知らせ>
本園ではホームページを開設しています。パソコンやスマホで、「志賀学園 並木幼稚園」と入力し検索しますと「並木幼稚園一平第一幼稚園」と出ます。そこをクリックし、「新着情報」の「○月の写真」や「○月の園だより」をクリックするとご覧になれます。

令和2年度は、4月3日(金)の「慣らし保育」からスタートしました。もちろん、このスタートからも、昨年度末の卒園式同様、新型コロナウイルス感染防止のための対策をとりました。「密集・密着・密閉」の回避と消毒、時間短縮などです。子どもたちにとっては初めての園生活でしたが、緊張しながらも先生のお話をよく聞いて、楽しく踊ったり、先生の出し物を興味をもって見たりしていました。



4月6日(月)は、進級式でした。昨年度までのさくら組(年長者)さんはいなく、新しいさくら組さん、すみれ組(年中者)さんだけの式でした。朝の下駄箱の場所が替わり、入った教室も替わり、担任の先生も替わって、子どもたちは、一つ大きくなったことを何となく感じてはいたと思います。そして、改めて進級式でした。私も並木幼稚園園長として一つ大きくなったことを自覚して話させていただきました。短く、短時間で。



4月8日(月)は、入園式でした。当初、本年度は入園式を1回で行う予定でしたが、密集を避けるため、3回に分けて行いました。

そして短時間で。記念写真撮影も写真屋さんにお願いをして昨年の約半分の時間で撮影していただきました。主役は入園児できちんと椅子にお座りし、しっかりお話を聞いていたのには感心しました。アンパンマンのぬいぐるみが登場すると目を一段と輝かせ先生方と一緒に手遊びにはちょっぴり恥ずかしがる姿もあり微笑ましかったです。準主役のさくら組の代表園児の「おむかえのことば」は、大きな声で上手にできました。今振り返ると予定していた期日に入園式を無事実施できましたことは、幸いでした。





実は、昨日の夜、文が続かない場合、言葉が出ない場合に備えて、私のこれまでの保存資料を物色していました。読んでみて私自身が励まされたので記します。数年前の文集の原稿からです。

今の私からこれから皆さんへ

最近見たテレビ番組からの抜粋です。

その人(男)は、高校を中退し、スキー場の調理場で働いていた。大学生の女の人が、そこでアルバイトをした。二人は愛し合うようになったが、女性は結婚を反対された。が、二人は結婚した。誰にも頼らず二人で生きていこうと 450 万円の借金をしてラーメン屋を開いた。夫は、ラーメンの味にこだわり、研究に没頭すると店を閉めることもあった。妻は反対し、けんかになることは日常茶飯事だった。

10 年かけて店が軌道に乗りかけたある日、夫(店長)が、朝、寝坊をし急いでいたために、右腕を機械に——。利き腕の右腕を失ってしまった。夫は、「もう、これで、俺たちの人生終わりだな」と思った。

妻は、「ここでラーメン屋をおわりにしてはいけない」と思った。夫が帰ってくるのは、ここしかないと思い、ラーメン屋を続けることにした。

続けた。

ある日、妻が病院に行くと、夫は、左腕で折り紙を折っていた。

夫が、退院した。

夫は、左腕で、ラーメンをつくった。

夫婦でラーメン屋ができた。

平成 23 年 3 月 11 日、あの東日本大震災。数日後に、夫婦は、被災地で、ラーメンをつくりっていた。その数 1 万 5 千食以上。費用は全て借金。

「家も子どもも失ったんです。この先どうしようかと思っていたときに、この 1 杯のラーメンですごく勇気をもらいました。ありがとうございます」と、泣き崩れたお母さんが言った。

「自分たちを育ててくれたふるさとの人たちが困っている。見過ごすわけにはいかない」と、店長(ラーメン屋の夫)は言った。

何気なく見た番組なのですが、好きなのです。私は、こういうのが好きなのです。私の紹介ではうまく伝わらないかもしれません、このときも、近くに置いておいたタオルをたぐり寄せました。

平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災があったことは、たしかなことです。

多くのもの
多くの人の命が失われたことも
事実ではあります
生き残った人がいるということも
事実です。
そして、生き残った人々が
あの悲劇を繰り返さないようにと、闘い始めたのも事実です。

人って すばらしいと おもいます
すばらしいところがあると おもいます
もちろん わるいところ わるいめんもあります

でも あの 極限状態の中で
助け合う人が
助け合う人々が いたのです

いいなって 思います
生きている ということは
生きていけるって ということは

人は 学びます
失敗 間違いから
人は 創り出します
失敗 間違いから
人は創り出します
よりよい世の中を